



教会歴史アドバイザー

教会歴史ガイド

教会の歴史記録を
収集し、保存し、分かち合う

教会歴史アドバイザー

教会歴史ガイド

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会 ユタ州ソルトレーク・シティー

© 2015 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved.

印刷：アメリカ合衆国 英語版承認：4/15 翻訳承認：4/15 原題：Church History Guides: Church History Advisers. Japanese PD50026453 300

教会歴史ガイド； 教会歴史アドバイザー

概要

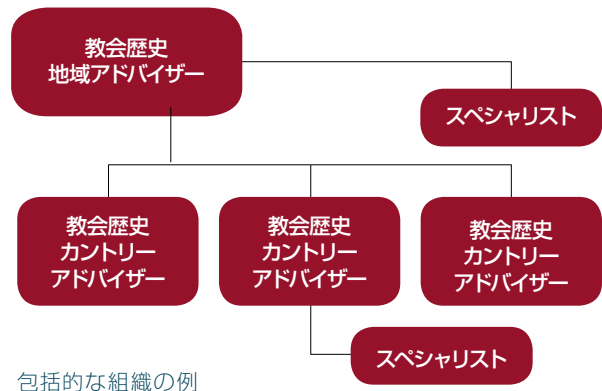
目的

教会歴史アドバイザーは、地域会長会または、その地域を監督する七十人会長会の指示により召され、地域における全ての教会歴史活動を調整します。これには以下が含まれます：

- ・ 地域の指導者が定めた優先事項にのっとり年間地域教会歴史計画を作成する。
- ・ 計画を実施し、計画に従って教会歴史の業を進める。

組織

地域の規模と必要によりますが、以下のような形の組織が考えられます：



教会歴史アドバイザーの重要な役割は、他の人々を訓練することです。



目次

| | |
|---|----|
| はじめに | 1 |
| 土台となる教義 | 3 |
| 教会歴史アドバイザーの責任 | 5 |
| 概要と組織 | 6 |
| 地域教会歴史計画 | 8 |
| 個人が行っている探求プロジェクト | 10 |
| 教会歴史ガイド | 11 |
| ボランティア開示許諾書 | 12 |
| 資料..... | 13 |
| 教会指導者の言葉 | 13 |
| 記録保存の重要性に関するその他の聖文 | 15 |
| ヘンリー・B・アイリング管長「記憶にとどめ, 覚えておきなさい」 (総大会説教) | 17 |
| マーリン・K・ジェンセン長老「覚えておきなさい。滅びてはならない」 (総大会説教) | 20 |
| 「あなたがたの間で記録を記さなければならない」 (教会機関誌によるマーリン・K・ジェンセン長老へのインタビュー) | 22 |

はじめに



グローバルサポート・アキュイジション課職員とともに七十人のラファエル・E・ピノ長老と会談する南アメリカ北西地域教会歴史アドバイザーたち。

教義と聖約に記されているとおり、主は教会に対して、末日聖徒の生活のようすや彼らの信仰、行いなど、シオンで起こる全ての重要な事柄について記録と歴史を絶えず書き残すよう命じておられます（教義と聖約47：3；69：3；85：1-2）。1830年以来、教会はその歴史を収集し、保存し、分かち合うことに取り組んできました。



収集する



保存する



分かち合う

現在、教会は大きくなり、教会歴史の業を分散して行うことが必要となりました。分散して行う場合、地域会長会が指導および情報を提供し、教会歴史部が支援と訓練を提供します。

教会歴史アドバイザーは、地域会長会またはその地域を監督する七十人会長会の会員の指示により召され、地域における全ての教会歴史活動を調整

します。広く、多様性に富む地域の場合、地域会長会はさらに、教会歴史のカントリーアドバイザーあるいは地区アドバイザーを召すことができ、教会歴史委員会を設置し、具体的な仕事を支援するためのスペシャリストを召すことができます。男性、女性、および夫婦がこれらの責任で奉仕することができます。どのような規模の組織にするかは、地域会長会が設定する優先順位によって決まります。他の人々をこの業に参加させることは、責任をともに担い、新しい人々を訓練するよい方法であり、さらに、教会歴史の将来の地域アドバイザーやカントリーアドバイザーとして奉仕できる人々を決めるためにもよい方法です。

右ー ソルトレーク・シティーで行われた訓練に集まった教会歴史地域アドバイザーたち。



土台となる教義

教 会歴史の業は、「主が……どのような偉大なことを行われたか」（モルモン書タイトルページ）を教会員に思い起こさせ、キリストに近づけます。困難に遭っても主の助けによってそれらを克服した人々について知ることで、希望と確信が強まります。歴史から学ぶことで、間違いを繰り返すのを避けることができ、自分が何者であるのか、また何を受け継いでいるのか知ることができます。このように、教会歴史は現在と後の時代の人々への祝福なのです。

以下に紹介する聖句を研究し、13ページから始まる「資料」の項にある資料を読むことでさらに理解を深めることができます。

教義と聖約21:1

「見よ、あなたがたの間で記録を記さなければならない。」

教義と聖約47:3

「さらにまた、わたしはあなたに言う。彼〔教会歴史家〕は教会の記録と歴史を絶えず書き残すために任命される。」

教義と聖約69:3, 5

「わたしの教会について……すべての重要な事柄の歴史を引き続き書いて作成〔し〕、……さらにまた、地の方々にいるわたしの僕たちは、自分の管理の職についての報告書を……送らなければならない。」

教義と聖約85:1-2

「主が任命された主の書記の義務は、歴史を記録し、シオンで起こるすべてのことについて、……また、彼らの生活の様子や、彼らの信仰や、行いについても……記録を書き残すことである。」

アルマ37:6-8

「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。……また、ごく小さな手段によって、主は知者を辱め、また多くの人を救われる。これまでこれらの記録が残されてきたのは、神の知恵によるものであった。見よ、これらの記録はこの民に多くのことを思い出させ、また多くの人に彼らの行いが誤っていることを納得させ、神について知らせ彼らが救われるようにしてきたからである。」



アルマ37:14

「わが子よ、神がこれらのものの記録をあなたに託されたということを覚えておきなさい。これらのものは神聖であり、神はこれまでこれらのものを神聖に保ってこられた。そしてこれから、御自分の力を後の時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明な目的のためにこれらのものを保存し、守られるであろう。」

教会歴史 アドバイザー の責任



概要と組織

地域における教会歴史の業を支援するために必要な組織は、地域会長会、あるいは、その地域を監督する七十人会長会の会員によって決定されます。これらの指導者の指示の下で、教会歴史アドバイザーとスペシャリストは、地域における教会歴史活動の全てを調整するために召されます。これには以下が含まれます：

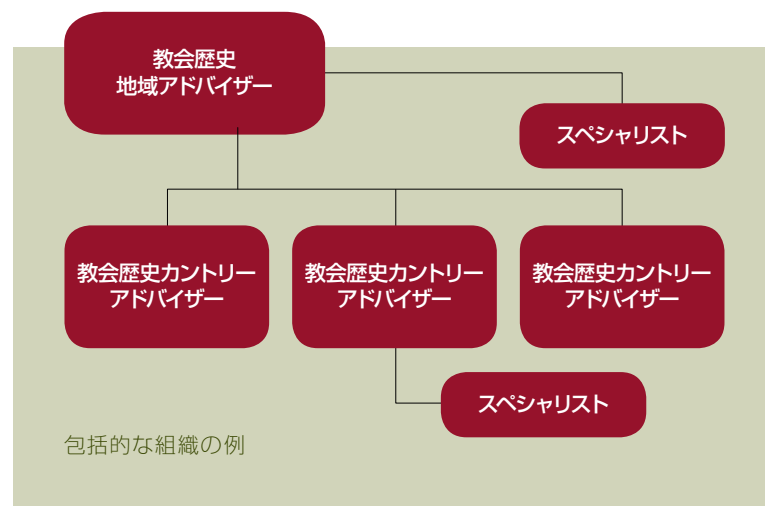
- ・ 地域の指導者が定めた優先事項ののっとって年間地域教会歴史計画を作成する。
- ・ 計画を実施し、計画に従って教会歴史の業を進める。

教会歴史地域アドバイザーは、地域会長会、またはその地域を監督する七十人会長会の会員に報告します。教会歴史地域アドバイザーは、カントリーあるいは地区の教会歴史アドバイザー、さらには特定の責任を行うために召されたスペシャリストの助けを受けることができます。これらの人々は、地域会長会の指示の下に召され、任命されます。教会歴史アドバイザーが指示を与え、フィードバックし、励ますことができるように、教会歴史地域アドバイザーとこれらの教会歴史の業を行う人々が定期的に連絡を取り合うことは重要です。

国または地区の教会歴史アドバイザー

国または地区で働く教会歴史アドバイザーは、担当する地域が教会歴史地域アドバイザーより狭いだけで、責任は同じです。国または地区で働く教会歴史アドバイザーは、教会歴史地域アドバイザーに報告し、定期的に自分の活動について調整する必要があります。

左ー ニュージーランドのテンブルビューにある記録保存センターで布地を保存しようとしている教会歴史アドバイザー。



教会歴史スペシャリスト

スペシャリストは、以下の分野での支援を行います。管理上の支援、翻訳、新たに入手した記録や口述による歴史記録の処理、記録保存センターのスタッフの手配、記事や書籍の出版、カントリーウェブサイトへの歴史に関連する記事の掲載。スペシャリストは、教会歴史カントリーアドバイザーまたは教会歴史地域アドバイザーのどちらかに報告します。

教会歴史地域アドバイザーは、地域会長会、またはその地域を監督する七十人会長会の会員に報告します。





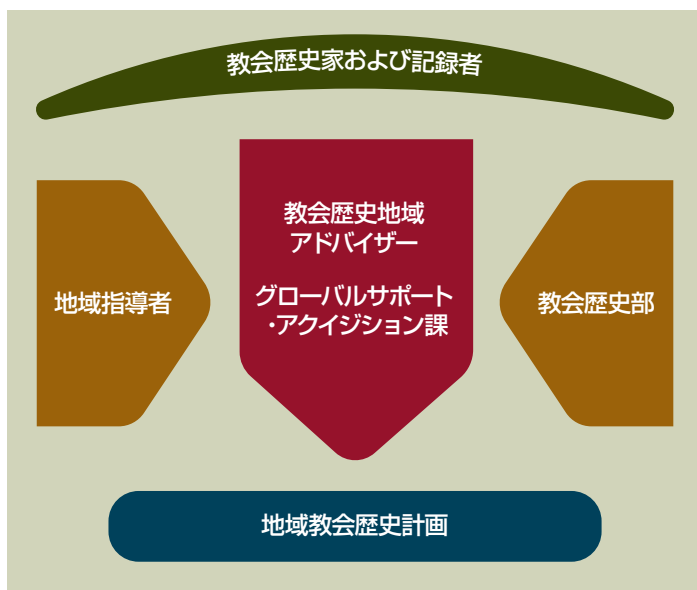
韓国の教会歴史委員会のミーティング。

教会歴史委員会

教会歴史委員会は、いろいろな人々に教会歴史の業に携わってもらうためにも、また、地域における年間の教会歴史計画をより効果的に実施するためにも有効な手段です。必要に応じて、地域および国レベルで委員会を組織することができます。委員会のメンバーとしては、教会歴史アドバイザーとスペシャリスト、広報部、家族歴史部、会員統計記録課それぞれの代表者、さらに、地元の神権指導者、地域の幹部書記、地域七十人神権アドバイザーなどが考えられます。

グローバルサポート・アキュイジション課

教会歴史部のグローバルサポート・アキュイジション課は、電話、電子メール、テレビ会議などを使い、時には実際に会って、教会歴史地域アドバイザーと密接に連携を取りながら働きます。



テレビ会議による情報交換。

地域教会歴史計画

地域教会歴史計画は、地域の動きとリソース計画サイクルに合わせて、年度ごとに作成します。教会歴史の業は、地域の予算に組み込まれ、エリアプランの一部として扱われるべきです。グローバルサポート・アキュイジション課は、助言、提案、また、他の所で行われた内容を伝えることで、地域教会歴史計画作成を援助します。また、地域予算に占める教会歴史部分の予算の検討を行います。アメリカ合衆国とカナダにおける各地域の予算は、教会歴史部予算に含まれています。

地域教会歴史計画は以下の項目から成ります：

1. これまでに教会歴史を収集し、保存し、分かち合うために行った取り組みの概要
2. 地域会長会が教会歴史の業に定めた優先事項にのっとった高水準の計画
3. 具体的な実施内容

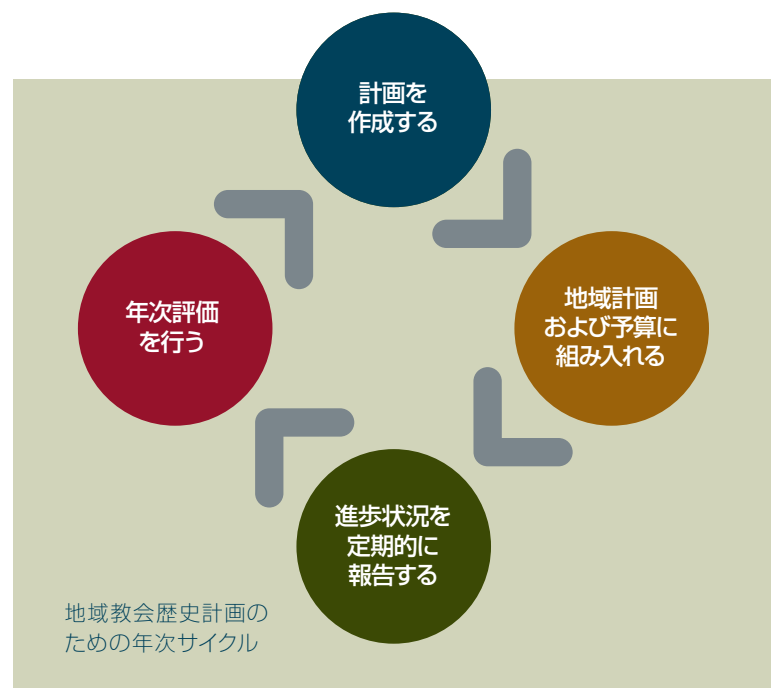
計画には以下の項目があります：

収集する

- ・ 正確で有意義な年次歴史記録を準備するよう指導者を訓練する。
- ・ 地域年次歴史記録を作成する。
- ・ 個人から記録を収集する。
- ・ 口述歴史を記録する。

保存する

- ・ 地元で得た記録を確実に保存する。これには、記録の写しを作成し、ユタ州ソルトレーク・シティにある教会歴史図書館に送ることが含まれる場合がある。
- ・ 地元の記録保存センターを管理する。
- ・ 史跡保存の要請を調整する。



分かち合う

- ・ 地元の歴史的活動または記念祭を支援する。
- ・ 教会歴史に関する情報をカントリーウェブサイト、教会機関誌、書籍で公開する。
- ・ 記念碑を設置する。
- ・ 教会歴史の情報を紹介する展示を作成する。

提携する

- ・ 地域における教会の他の部署との関係を築く（提携の対象として、セミナリー・インスティテュート、広報部、家族歴史部、視聴覚部、実務ディレクターが有力な候補）。
- ・ 同じような目的を持つ他の組織について知る。

地域教会歴史計画には、目的、実施予定日、必要となるリソースの見積もり（予算と人材）など、実施に伴う詳細な項目を盛り込む必要があります。教会歴史地域アドバイザーは、その計画について地域管理本部の職員と連絡を取り合う必要が出てくるでしょう。例えば、送料の支払い、記録保存のために部屋の改装が必要となるかもしれません。計画に



地域において、教会の他の部署との関係を築きます。

概要が記された業を支援するにはさまざまなリソースが必要となります。 次のような出費が考えられます：

- ・ ノートパソコン
- ・ インターネット接続
- ・ プリンターおよびスキャナー
- ・ 携帯電話
- ・ デジタル・オーディオ・レコーダー
- ・ デジタルカメラまたはカムコーダー
- ・ オフィス備品および送料
- ・ 交通費

購入した機器は地域の所有物であり、注意を払って維持、管理しなければなりません。しかし地域が入手した歴史記録物は教会の所有であり、教会歴史部を通じて教会歴史家および記録者の指示の下に管理されます。これらの記録物は、許可を得た場合に限り地元で保管することができます。（詳しくは『教会歴史ガイド——記録保存センター』を参照してください。）

個人が行っている探求プロジェクト

ときどき、教会歴史アドバイザーは個人から、個人の立場で作る教会歴史プロジェクトへの支援を依頼されることがあります。その際、以下の点に留意してください：

- ・ 地域教会歴史計画を常に念頭においてください。年間を通して計画変更を考慮しなければならないかもしれませんが、それには地域会長会の承認が必要です。
- ・ ウェブサイトhistory.lds.orgは、記録探求者が必要とする多くの事柄に関して援助することができます。
- ・ 個人で行っている教会歴史プロジェクトについては、グローバルサポート・アキュイジション課に連絡してください。その人の名前、連絡に必要な情報、および調査テーマも合わせて知らせてください。

教会歴史アドバイザーは、召しの責任として行うことと、本の執筆など、個人で行っている教会歴史プロジェクトとははっきり区別すべきです。教会歴史アドバイザーが召しから金銭的な利益を得ている、あるいは不適切に情報を外に漏らしていると会員に思われるようなことがあれば、信頼は失われます。

教会歴史アドバイザーは、アドバイザーとしての立場を個人的な利益を得るために利用してはなりません。



教会歴史ガイド

地域会長会が教会歴史の責任を果たすうえで助けとなるように、教会歴史部は教会歴史の幾つか特定の側面に焦点を当てた訓練資料を作成しました。地域会長会は、そのとき担当する地域で取り組むべき事柄を決定します。そうして決定されたことは、地域教会歴史計画に盛り込まれます。

教会歴史ガイドには、その業を実行する人たちへの指示が書かれています。ガイドには柔軟性を持たせてありますが、効果を実証された標準と原則に従うことで、間違いを避け、より効果的に働くことができます。ガイドと追加訓練資料は、グローバルサポート・アキュイジション課、および lds.org/callings/church-history-adviser で入手できます。



収集する

ステーク、地方部、伝道部の
年次歴史記録

地域年次歴史記録

口述による歴史記録

記録の収集



保存する

記録保存センター



分かち合う

教会歴史センター

史跡

教会歴史を出版する

教会歴史を展示する



教会歴史ガイドの例。



訓練のために集まったケニアの教会歴史アドバイザーたち。

ボランティア情報公開同意書

全ての教会歴史アドバイザーは、召しを受けたらすぐに、ボランティア情報公開同意書に署名することを求められます。同意書はlds.org/callings/church-history-adviserの「フォーム」ページで入手できます。同意書をよく読んで署名し、グローバルサポート・アクイジション課に送ってください。

資料

教会指導者の言葉



過去を覚えておくことで、教会員は主から祝福を受けることができます。ヘンリー・B・アイリング管長は、2007年10月の総大会説教「記憶にとどめ、覚えておきなさい」の中でこの原則を教えています（『リアホナ』2007年11月号、66–69。「資料」のセクションに掲載されています）。アイリング管長は、個人の記録、さらに教会記録を付けることによって、以下の祝福がもたらされると教えています：

- ・生活の中に主の御手を認めて、主の優しさに気づくようになる。
- ・主を覚えていることができる。
- ・証が強まる。
- ・感謝の気持ちが深まる。
- ・聖霊が思い起こさせてくれるという確信が増す。
- ・繁栄にともないやって来る、神を忘れるという誘惑を避けることができる。

アイリング管長は歴代の預言者と同じ約束をしています。それは、個人と教会の歴史を記録してそれを活用するという戒めに忠実であれば、祝福を受けるという約束です。以下は記録を保存することがいかに大切であるかについて述べた教会指導者の言葉です：

ジョセフ・スミス (1844年5月26日)



「わたしには過去3年分の自分の全ての行いと出来事についての記録があります。善良で、信仰深い、有能な書記を常に雇っていたからです。彼らはどこでもわたしに同伴し、丁寧にわたしの歴史を記しました。彼らはわたしが行ったこと、わたしがいた場所、わたしが言ったことを書き留めていたのです。」(History of the Church, 第6巻, 409)

ウィルフォード・ウッドラフ (1856年9月15日)



歴史事務所の奉獻の祈りより—
「わたしたちはまた、十二使徒定員会、七十人、そしてあなたの教会の全ての教会幹部と定員会を祝福してくださるようにお祈り申し上げます。また、地の国々にいるあなたの僕たちを祝福し、彼らが自分たちの働きについての記録を送るよう促しを受け、それによりわたしたちが真実の忠実な記録を付けることができますように。そして霊界に行ったときに神の聖徒たちが、わたしたちの付けた記録を読み、祝福を受けることができますように。」(Journal History of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 1856年9月15日付、4で引用、教会歴史図書館、ソルトレーク・シティ—)

スペンサー・W・キンボール (1979年10月6日)



「これまで何度か、聖徒たちに日記を付け、家族の記録を記録するように勧めてきました。再びここでその勧告を繰り返しておきたいと思います。わたしたちは自分が個人的に言ったことや、行ったことに対して、それほどの影響力も重要性も

ないと思っているかもしれません。しかし、わたしたちが家系を下って伝えるとき、いかに大勢の人がわたしたちの言動に深い関心を寄せているか驚かされます。わたしたちは誰でも自分の身近にいる人、愛する人々にとって大切な存在なのです。同じようにして、わたしたちの子孫もわたしたちの経験を読むとき、わたしたちのことを知って、愛を感じるようになることでしょう。そして、栄光に満ちた日に、わたしたち家族が永遠に一つとなるとき、既に互いに心を通じ合える人となっているのです。

昔から、主はわたしたちが記録をつける民になるようにと勧めてこられました。……

そこでこれからも、わたしたちが行うこと、述べること、考えることを記録していく大切な務めを継続し、主の勧告に従っていただきたいと思います。まだ覚えの書や個人の記録を書き始めている人は、まさに今日から完全な記録を書き始めるようお勧めします。兄弟姉妹の皆さん、皆さんがこれを行うように願っています。なぜなら、これは主の戒めだからです。」（『聖徒の道』1980年3月号、4参照）

スペンサー・W・キンボール（1980年10月4日）

「わたしは再び皆さんに、個人と家族の歴史を作成するように勧告します。……この点において他の人々の模範となり、わたしたちに……受け継がれた遺産を守ると同時に、堅固な家庭にもたらされる恵みを刈り取ろうではありませんか。」（『聖徒の道』1981年4月号、5）

ゴードン・B・ヒンクレイ（1996年10月6日）



「わたしたちは皆、過去のことを思い起こしてみる必要があります。わたしたちは歴史を学ぶことによって、過ちを繰り返さないための知識を得られます。また、それを基として、未来を築くようになるのです。」（『聖徒の道』1997年1月号、97参照）

ゴードン・B・ヒンクレイ（1999年10月3日）

「兄弟姉妹、わたしたちが何を手にしているのか分かりますか。人類史の壮大なドラマでのわたしたちの立場が分かりますか。……

神の祝福があって、歴史の中でのわたしたちの位置づけを理解することができますように。そしてその理解により、決意をもって雄々しく歩むことの必要性に気づくことができ、いと高き神の聖徒になることができますように、へりくだり、……申し上げます。」（『リアホナ』2000年1月号、89）

L・トム・ペリー（1999年10月3日）



「わたしたちの家族の最初に福音を受け入れた人々がどのようにそれを知り、どのように受け入れたかというすばらしい話を、子供たちのために保存してきたでしょうか。彼らが福音を勉強し、受け入れてくれたおかげで、永遠の祝福を受けるためのすばらしい機会がわたしたちのために門戸を開いたのです。……

生涯を通じて大きな献身と信仰を示してくれたわたしたちの家族の改宗談は、福音の実を結んだ結果として、今日、わたしたちが享受しているたくさんの祝福を与えています。確かに、彼らが人生で示したような信念をもって生活したいという望みを強めるため、その信仰や献身についての知識を代々伝えていかなければなりません。確かに、彼らの証はわたしたちの証に信念と強さを増し加えてくれているのです。」（『リアホナ』2000年1月号、91、92）

トーマス・S・モンソン（2005年10月7日）



「わたしたちは、先祖がわたしたちのために成し遂げたことによって恩恵を受けています。ここ〔新しい教会歴史図書館〕に保存されることになる神聖な記録を通じて、後の人々に先祖から受け継いできたものを渡す特権があります。」（R・スコット・

ロイド “New Library for Sacred History,” *Church News*, 2005年10月15日付、3）

記録保存の重要性に関する その他の聖文

モーセ6:5-6, 8

「また、覚えの書が記され、アダム言葉で記録された。神に呼び求めたすべての者は、霊感の霊によって書くことを許された。

そして、彼らによってその子供たちは読み書きを教えられ、その言葉は清らかで汚れないものであった。……これはアダム歴代の書で……あった。」

1ニーファイ1:1

「わたしニーファイは善い両親から生まれたので、父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた。わたしはこれまでの人生で多くの苦難に遭ったが、生まれてこのかた主の厚い恵みを受け、まことに神の慈しみと奥義を深く知った。そこで、生まれてからこれまでの間に行ってきたことを記録する。」

1ニーファイ19:1-2, 4

「さて、わたしは主に命じられたので、民の記録を刻むためにあらがねで版を造った。そして、その版に父の記録と荒れ野での旅のこと、父の預言、またわたし自身が語った多くの預言を刻んだ。……



父の記録や先祖の系図、それに荒れ野での行動の大部分〔は〕……わたしが先に述べた……版に刻んである。……

それでわたしニーファイは、民の戦争と争いと滅亡のいきさつを……詳しく述べる話を……記録した。」

1ニーファイ19:3-4, 18

「わたしニーファイは、務めと預言、すなわちそれらの中で分かりやすく貴重な部分を、この版に書き記すように命じられた。また、……わたしの民を教えるために、……この版に書き記されたことを保存するようにとの命を受けた。……

それで……〔わたしは、〕わたしの死んだ後になすべきことを民に命じ、……これらの版を代々譲り伝え……るように命じた。……

わたしニーファイがこれらのことを民に書き記してきたのは、主なる彼らの贖い主を覚えるように彼らを説得できると思ったからである。」

2ニーファイ29:11-12

「わたしは、東の地、西の地、北の地、南の地、また海の島々にいるすべての者に、わたしの語る言葉を書き記すように命じるからである。わたしは書き記される数々の書によって、世のあらゆる人を、書き記されていることに従い、彼らの行いに応じて裁く。

見よ、わたしがユダヤ人に語れば、彼らはそれを書き記し、ニーファイ人に語れば、彼らはそれを書き記す。また、わたしが連れ出したイスラエルの家のほかの部族に語れば、彼らもそれを書き記す。さらにわたしが地のすべての国民に語れば、彼らはそれを書き記す。」

モーサヤ1:4-5

「この版の助けがなければ、先祖のリーハイは、これらの事柄をすべて思い出して子供たちに教えることなどできなかったであろう。彼はエジプト人の言葉を教えられていたので、これらの刻まれたものを読み、それを子供たちに教えることができた。そして、子供たちもまたその子供たちに教え、そのようにして現在に至るまで、神の命令が果たされてきたのである。

息子たちよ、わたしはあなたがたに言う。これらのものが神の御手によって書き継がれ、そして残されたのは、わたしたちがこれを読んで神の奥義を理解し、神の戒めを常に目の前に置いておけるようにするためであって、もしこれらのものがなかったならば、わたしたちの先祖でさえも不信仰に陥っていたであろう。そしてわたしたちは、同胞のレーマン人のようになっていたに違いない。レーマン人はこれ



らのことについてまったく知らず、たとえ教えられても、彼らの先祖の正しくない言い伝えがあるために信じないのである。」

3 ニーファイ23:8-13

「そこでニーファイが記録を持って来てイエスの前に置くと、イエスはそれらの記録に目をやって言われた。

『まことに、あなたがたに言う。わたしはレーマン人であるわたしの僕サムエルに、この民に証するようにと命じた。その証とは、父がわたしによって御名に栄光を受けられる日に、多くの聖徒が死者の中からよみがえって、多くの者に現れ、彼らを教え導くであろうということである。』そして、イエスは彼らに、『そのとおりではなかったか』と言われた。

そこでイエスの弟子たちは、イエスに答え、『はい、主よ、サムエルはあなたの御言葉のとおりに預言し、それはすべて成就しました。』と言った。

するとイエスは彼らに、『多くの聖徒がよみがえって多くの者に現れ、彼らを教え導いたことを書き記していないのはどうしてか』と言われた。

そこでニーファイは、このことがまだ書き記されていないのを思い出した。

そして、イエスがそれを書き記すように命じられたので、イエスが命じられたとおりにそのことが書き記された。」

記憶にとどめ、覚えておきなさい

大管長会第二顧問 ヘンリー・B・アイリング管長

『リアホナ』2007年11月号, 66-69参照



「記憶にとどめ、覚えておきなさい」と、モルモン書の預言者はしばしば懇願しました。¹ 皆さんに切にお願いしたいことは、神の優しさに気づき、覚えておく方法を見つけることです。

今朝、合唱団が「ミュージック・アンド・スポークンワード」の全国放送の中で、救い主について歌ってくれたことを感謝しています。その中の1曲である、「キリスト、神の御子」がジェームズ・E・ファウスト管長の作詞であるのを見てうれしく思いました。ニューエル兄弟の隣に座ったとき、わたしは兄弟の方に身を傾けて「お子さんは元気ですか」と尋ねました。ニューエル兄弟はこう答えました。「ファウスト管長がそこに座っておられたとき、いつもそう尋ねられました。」それは驚くことではありませんでした。なぜなら、ファウスト管長は常に、今日「ミュージック・アンド・スポークンワード」で語られたような、キリストの弟子の完全な模範であったからです。子供の頃からいつもそう感じてきました。わたしはファウスト管長のような人になりたいと思ってきました。まだその時間はあるかもしれません。

子供がとても小さかった頃に、わたしは毎日の出来事を少しだけ書き留めるようになりました。そのきっかけを話しましょう。ある晩、教会の責任で夜遅くに帰宅しました。辺りは暗く、玄関に向かって歩いていると、近所に住む義理の父が突然現れたので驚きました。義父は作業着姿で水道管を肩に担ぎ、足早に歩いていました。義父が坂の下にある小川から、わたしたちの土地まで水をくみ上げる配管工事をしていることは知っていました。

義父はほほえみ、優しく声をかけると、作業を続けるため足早に通り過ぎ、闇の中に消えて行きました。義父がわたしたちのためにしてくれていることについて考えながら、わたしは家に向かいました。玄関に着いた途端、次の言葉がわたしの頭に聞こえました。それは自分の声ではありませんでした。「わたしはこうした経験をあなた自身のために与えているのではない。書き留めなさい。」

わたしは家に入りました。疲れていましたが、床には就きませんでした。紙を何枚か取り出し、ペンを

走らせました。書いていると、頭の中に聞こえた言葉の意味が分かってきました。将来いつの日か、神の御手がわたしたち家族をどのように祝福してくださったかを子供たちが読めるように、わたしは自分が見てきたことを記録しなければならなかったのです。義父は、その作業をする必要はありませんでした。誰かに頼むこともできましたし、まったく何しなくてもよかったのです。しかし義父は、家族であるわたしたちに奉仕をしてくださいました。主と聖約を交わした弟子たちが常にそうするように奉仕したのです。わたしはそれが真実だと知っていました。そして子供たちがいつか必要なときに思い出せるよう、そのことを書き留めました。

わたしはそれから何年も、毎日少しずつ書き留めました。どんなに疲れていても、翌朝どんなに早起しなくてはならないとしても、一日も休みませんでした。書く前には、次の質問を考えるようにしました。「今日、神がわたしたち、子供たち、家族に御手を差しのべて、触れられるのを見ただろうか。」続けていくうちに、何かが起き始めました。一日の出来事に思いをはせると、神が家族の中の誰かのためにされたことで、日中の雑多の中では気づけなかったことがよく分かるようになったのです。そうすると、それは何度も起きたのですが、覚えておこうと努力することで、神は御自身がなさったことを示して下さることが分かるようになりました。

言い尽くせないほどの感謝の念が心に芽生え始めました。証が育ったのです。天の御父が祈りを聞き、こたえてくださるという確信が今までになく強まりました。救い主イエス・キリストの贖い^{あがな}によって人の心が和らげられ、清められることに対して、さらに感謝するようになりました。また、そのとき気づけなかったり、関心に向けていなかったりしたことも、聖霊はことごとく思い起こさせることがおできになるということにも、今まで以上に確信が持てるようになりました。

月日がたち、息子たちは大人になりました。時折、息子の一人がこう言ってわたしを驚かせます。「お父さん、あのときの日記を読んでいただけど……。」そして、昔の出来事を読むことで、神がその当時してくださったことに気づくことができたと話してくれるのです。

皆さんに切にお願いしたいことは、神の優しさに気づき、覚えておく方法を見つけることです。それは皆さんの証を築きます。皆さんは日記をつけていないかもしれません。自分の記録を、愛し、仕えている人たちに見せていないかもしれません。しかし、主がなさったことを覚えることで、皆さんも皆さんが日

記を見せる人たちも祝福を受けます。ときどき歌うこの歌を覚えているでしょう。「かつて受けし主の恵み数えてみれば驚かん。」²

覚えておくことは簡単ではありません。前世の記憶なしで生きているわたしたちは、天の御父とその愛子イエス・キリストと前世でともにいたときのことを思い起こすことができません。また肉の目や理性だけでは、神の御手を生活の中に見いだすことはできません。このようなものを見るには、聖霊が必要なのです。そしてこの邪悪な世にあって、聖霊を伴侶とするためのふさわしさを身につけることは容易ではありません。

世の始まりから、神の子供たちの間で神を忘れるということが常にも問題となっているのはそのためです。モーセの時代について考えてみてください。神はマナを与え、奇跡や目に見える方法で御自身の民を導き、守られました。しかし預言者は、これまでも、またこれからも常にそうするように、これほどまでに祝福された民に警告しました。「ただあなたはみずから慎み、またあなた自身をよく守りなさい。そして目に見たことを忘れず、生きながらえている間、それらの事をあなたの心から離してはならない。」³

「覚えている」という課題は、豊かに祝福されている人々にとって、常に最も難しいものです。神に忠実な人は守られ、栄えます。それは神に仕え、戒めを守っていることの結果として生じます。しかし、それらの祝福と同時に、その祝福がどなたから与えられたのかを忘れるという誘惑もやって来ます。与えられている祝福を、よりどころである愛ある神からではなく、自分自身の力によって得たものだと感じるのは容易なことです。預言者はこの悲しみについて繰り返し語っています。

「このことからわたしたちは、人の子らの心がどれほど不誠実で不安定であるかを知ることができる。まことに、主を信頼する者たちを、主が大いなる限りない慈しみをもって祝福し、栄えさせられるということも、わたしたちは知ることができる。

また、主が御自分の民を栄えさせられるまさにそのとき、まことに、民の畑と家畜の群れを増し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々と人工の貴重な品々を与え、民の命を助け、敵の手から民を救い出し、また宣戦することのないように敵の心を和らげ、要するに御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われるそのときに、彼らは心をかたくなにし、主なる神を忘れ、聖者を足の下に踏みつけるということが、わたしたちに分かるのである。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。」

預言者は続けてこう述べています。「まことに、何と高慢になるのが早いことか。何と誇るのが早く、あらゆる罪悪を行うのが早いことか。人の子らは何と主なる神を思い起こすのが遅く、主の勧告に耳を傾けるのが遅いことか。何と知恵の道を歩むのが遅いことか。」⁴

悲しいことに、人が神を忘れるのは、繁栄だけが理由ではありません。わたしたちの多くがそうであるように、人生がうまくいかないときにも主を覚えるのが難しくなります。貧困に苦しむとき、または敵が向かって来るとき、あるいは病気が治らないときに、わたしたちの魂の敵は、「神は存在しない、いてもわたしたちのことは気にかけておられない」という邪悪なメッセージを送ることができるのです。そうなる、わたしたちが子供の頃から受けてきた祝福や、困難のただ中にもあっても受けてきた生涯に及ぶ主の祝福を、聖霊が思い起こさせてくださるのは難しくなってしまう。

神とその祝福、そしてわたしたちへのメッセージを忘れるというひどい病には、簡単な治療法があります。イエス・キリストは、十字架にかけられ、復活し、弟子たちのもとを去って御父の栄光に昇って行こうとしておられたときに、弟子たちにそのことを約束されました。弟子たちは、主がともにおられない中で、どうやって堪え忍ぶことができるのだろうかと心配していました。

これはその約束です。当時、その約束は弟子たちの間で果たされました。現代のわたしたちの間でも実現することができます。

「これらのことは、あなたがたと一緒にいた時、すでに語ったことである。

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであらう。」⁵

証を得て、その証を保てるように物事を覚えておくには、聖霊を伴侶として受けることが鍵となります。神がわたしたちにしてくださったことを理解できるようにしてくださるのは聖霊です。わたしたちの仕える人たちが、神がしてくださったことを理解できるように助けることがおできになるのも聖霊なのです。

天の御父は、聖霊を一度だけでなく、日々の混沌の中で絶えず受けるための簡単な規範を与えてくださいました。その規範は、聖餐の祈りの中で繰り返されています。わたしたちはいつも救い主を覚えるのと約束します。御子の御名を受けると約束します。

戒めを守ると約束します。そして、その約束を守るなら、御子の御霊を受けるという約束を受けます。⁶ わたしたちがその約束における自らの分を尽くすことで、これらの約束はすばらしい方法で互いに作用し合って一体となり、わたしたちの証を強め、やがては贖いによってわたしたちの性質を変えていくのです。

イエス・キリストが天の御父の愛子であられることを証されるのは聖霊です。御父はわたしたちを愛し、わたしたちが御父とともに、家族として永遠の命を受けることを望んでおられます。たとえその証を得たばかりであっても、御父に仕えたい、そして戒めを守りたいという望みを抱くようになります。その望みを抱き続けることで、奉仕をするうえで力を与えてくれる聖霊の賜物を受けます。すると、神の御手がもっとはっきり見えるようになります。はっきりと見えることで、わたしたちは主を覚えるだけでなく、主を愛するようになり、贖いの力によってもっと主に似た者になるのです。

こう尋ねる人もいるでしょう。「でも、神をまったく知らず、霊的な経験をした記憶がまったくないと言う人にとって、このような変化はどうやって起きるのでしょうか。」気づいていないだけで、誰にでも霊的な経験はあるはずです。全ての人はこの世に生まれてきたとき、キリストの御霊が与えられました。その御霊の働きについては、モロナイ書に説明されています。

「見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。

しかし、悪を行うように、キリストを信じないように、キリストを否定するように、神に仕えないようにと人に説き勧めるものは何であろうと、それは悪魔から出ていることをあなたがたは完全に理解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行うように説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従う者も、そのように説き勧めない。……そこでわたしは、同胞であるあなたがたに、善悪をわきまえることができるように、キリストの光の中で熱心に求めることを切に勧める。もしあなたがたが善いものをことごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。」⁷

ですから、たとえ教会の会員として確認され、聖霊の賜物を受ける権利を得る前であっても、またバプテスマを受ける前で、まだ聖霊を通して真理を確信していなくても、人は霊的な経験をしているのです。子供のときから、キリストの御霊はすでに善いことを行うように勧め、悪に対して警告しているのです。たとえその経験がどこから来ているのか気づいていなくても、誰しもそのようなことを経験したという記憶を持っています。そして、宣教師やわたしたちが伝える神の言葉を聞いたとき、その記憶がよみがえってきます。福音の真理を教わると、喜びや悲しみの感覚を思い出すのです。そのキリストの御霊による記憶は心を和らげ、聖霊が証することがおできになるようにします。そのことによって戒めを守るように導かれ、救い主の御名を受けたいと望むようになります。そしてバプテスマの水の中で戒めを守ったとき、そして、神の権能を受けた僕から確認を受け、「聖霊を受けなさい」と言われるときに、神を常に覚える力は増すのです。

この大会で真理に耳を傾けているときに感じる温かい気持ちは、聖霊から来るものであると証します。聖霊が与えられることを約束された救い主は、天の御父の愛と栄光をお受けになった御子です。

今晚と明日の晩、皆さんは祈り、深く考えながら、次の質問を自分に問いかけるかもしれません。「神はわたし個人に向けてメッセージを送られたのだろうか。自分自身や子供たちの生活に神の御手を見たのだろうか。」わたしはそうします。そして、わたしとわたしの愛する人たちが、神がどれほど愛してくださり、わたしたちがどれほど神を必要としているかを思い起こす必要があるための、その記憶を残す方法を探します。大半の人が気づいている以上に主がわたしたちを愛し、祝福してくださっていることを証します。これは真実であり、主を覚えることで喜びを得られるとわたしは知っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. モーサヤ2:41; アルマ37:13; ヒラマン5:9
2. 「み恵み数えあげ」『賛美歌』153番
3. 申命4:9
4. ヒラマン12:1-2, 5
5. ヨハネ14:25-26
6. 教義と聖約20:77, 79参照
7. モロナイ7:16-17, 19

覚えておきなさい。滅びてはならない

七十人 マーリン・K・ジェンセン長老（元教会歴史家および記録者）

『リアホナ』2007年5月号、36-38参照



神が意図しておられる方法で覚えることは、救いに必要な福音の基本原則です。

パーキン姉妹に続いて話せることを光栄に思います。パーキン姉妹の二人の顧問もそうですが、姉妹が行ってきた奉仕とその

教えは、わたしたち皆に祝福をもたらしました。18年半前、今と同じ時間に、わたしはこの説教壇の近くに立って、皆が賛美歌を歌い終わるのを待っていました。前に進んで、総大会で初めて説教をしようとしていたのです。不安に思っているのが見て取れたのでしょう。後ろに立っていたL・トム・ペリー長老が顔を近づけて、持ち前のきっぱりとした元気な調子でこうささやきました。「リラックスしてください。緊張のあまり壇上で命を落とした人はここ何年もいませんから！」

この励ましの言葉と、それからの数分間に全世界の末日聖徒に向けて初めて話をしたことは、わたしにとって忘れられない思い出となっています。わたしは絶えず記憶の貯水池に思い出を貯めています。それを思い出してみると、思い出は、わたしの考え方の非常に有益で、しかも多くの場合楽しい部分を作り上げています。そればかりか、歳を取っても昔話をして周囲に煙たがられるようなまねは決してするまいと、若い頃決心していたにも関わらず、今ではあらゆる機会に思い出を語っています。しかし、今日は、記憶の持つ、より深遠な役割について話します。イエス・キリストの福音において、「記録する」「覚える」ということは、単に過去の記憶を思い出して楽しむだけにとどまりません。

「覚える」という言葉が聖典の中でどのように使われているかよく注意して見ると、神が意図しておられる方法で覚えることは、救いに必要な福音の基本原則であることが分かります。なぜなら、覚えるよう促す預言者の勧告はたいいてい、耳を傾ける、見る、行う、従う、悔い改める、といった行動を求めるからです。¹ 神が望まれる方法で「覚える」ならば、人生の戦いのために防備を固めるだけにすぎない人間の性癖を克服して、実際に戦いに参加できるようになります。誘惑を退け、罪を避けるためにできる限りのことをするのです。

ベニヤミン王は、率先して覚えておくことについて、次のように民に勧告しました。

「最後に言うが、あなたがたが罪を犯すものになることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。

しかし、これだけは言える。もし自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後まで信じ続けないならば、あなたがたは滅びるに違いない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。」²

覚えることの人生における重要な役割に気づいたわたしたちは、何を覚えるべきでしょうか。今日ここに集い、由緒あるタバナクルを記念し、再奉獻するに当たり提言できることは、イエス・キリストの教会とその民の歴史を、記憶にとどめるべきだということです。聖文が最優先としているのは教会の歴史です。実際、聖文の大部分が教会の歴史です。教会が組織されたその日、神はジョセフ・スミスに、「見よ、あなたがたの間で記録を記さなければならない」³ と命じられました。この命令に従い、ジョセフは教会の第二の長老であり、ジョセフの第一補佐でもあったオリバー・カウドリを、最初の教会歴史家に任命しました。記録を取るのには記憶を助けるためであり、教会の起こりと発展は、オリバー・カウドリの時代から現在まで記録されています。この驚くべき歴史記録は、神が再び天を開き、現代のわたしたちに行動を促す真理を明らかにされたことを思い起こさせます。

長い年月にわたって歴史家たちが収集し、保存し、記述していた記録の中でも、ジョセフ・スミスの純粹で実直な物語ほど、教会歴史の大切さと影響力を如実に示しているものはありません。それは父なる神と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を表された、「最初の示現」として現在教会歴史に記されている物語です。何世代にもわたって宣教師たちが暗記し、真理を探究する全世界の人々に伝えてきた言葉の中で、ジョセフは、どの教会が正しいのかという祈りに、奇跡的な方法で答えが与えられたことを語っています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。

……そして、その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを

見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。』⁴

ジョセフは実際に主に尋ねてみました。以来、無数の人々がこの話を聞き、読み、ジョセフが回復の一端を担ったイエス・キリストの福音を受け入れてきました。わたしはジョセフ・スミスを信じ、彼が神の真の預言者であったことを知っています。ジョセフの最初の示現を思い起こすたびに、心に刺激を受けて決意が強まり、行動する力が増します。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長ほど、教会歴史の価値を認識している人はいません。人を喜ばせるユーモアのセンスもさることながら、歴史に対しても同じように並々ならぬ思いを持っています。彼の書いたものや説教には、教会の過去に起こった信仰を鼓舞する物語や逸話が散りばめられています。大管長は生ける預言者として、わたしたちが今この時にもっと義にかなった生き方ができるよう、過去と未来を強調しているのです。その教えを通して、わたしたちは、預言と信仰によって教会の未来に神の御手があることを確信できるように、記憶することで教会の歴史に神の御手があったことを確認することができます。ヒンクレー大管長は、わたしたちが神の恵みを通してさらに忠実に試練に立ち向かえるように、初期の教会員が試練に立ち向かう姿を思い出させてくれます。今も過去が息づいているようにすることで、大管長はわたしたちを、霊的な遺産である当時の人々や場所、出来事と結びつけ、わたしたちがさらに奉仕に励み、信仰を深め、より親切になるよう動機を与えています。

また、模範的な方法で、ヒンクレー大管長は自分の経験や家族の歴史をわたしたちに話してくれます。伝道に出たばかりで落胆している宣教師の中には、ヒンクレー大管長も伝道を始めた頃に落胆して、父親に手紙で伝えたことを知って安心した人も多いはず。大管長は、父親から来た短い返信も臆せず紹介してくれました。「愛するゴードンへ。手紙を読みました。わたしにできる忠告はただ一つ。自分を忘れて御業に励みなさい。」⁵ 70年以上もたった今でも、ヒンクレー大管長がこの勧告を胸に刻んで忠実に従っていることは、誰もが認めるとおりです。大管長の卓越した人格と預言者としての知恵は、自分の過去はもちろん、教会の歴史を覚えていることには恩恵があることをよく表しています。

イエス・キリストの福音における「記憶」と「覚える」ことについては話が尽きません。わたしたちはよく、神聖な聖約と神の戒めを覚えることや、亡くなった

先祖を覚え、救いの儀式を執行することについて語ります。そして何よりも、救い主であるイエス・キリストを覚えることがどれほど必要かを語ります。都合の良いときだけではなく、主が命じておられるように常に覚えておくのです。⁶ 聖餐を取るとき、わたしたちはいつも主を覚えていることを証明します。それに対して、いつも主の御霊を受けるという約束を与えられます。興味深いことに、「〔わたしたちに〕ことごとく思い起させる」のは、天の御父から送られるこの同じ御霊なのです。⁷ このように、ふさわしい状態で聖餐を受けることによって、わたしたちは御霊の祝福を受けて記憶という非常に有益な環の中に入り、わたしたちの考えも献身する心も、幾度も幾度もキリストとその贖罪に戻って行きます。

キリストのみもとに来て、キリストによって完全になるということは、覚えることの究極の目的ではないかと思います。⁸ 神が祝福してくださり、神の完全な御子を特に覚え、滅びることがないように祈ります。キリストの神性と救いの力を感謝をもって証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 2ニーファイ1:12; モーサヤ6:3; ヒラマン5:14参照
2. モーサヤ4:29-30
3. 教義と聖約21:1
4. ジョセフ・スミス—歴史1:16-17
5. ゴードン・B・ヒンクレー, *Faith: The Essence of True Religion* (1989年), 115
6. 3ニーファイ18:7, 11参照
7. ヨハネ14:26
8. モロナイ10:32-33参照

あなたがたの間で記録を記さなければならぬ。

教会機関誌による七十人マーリン・K・ジェンセン長老（元教会歴史家兼記録者）へのインタビュー

『リアホナ』2007年12月号、28-33参照



末日聖徒は、記録を残すこと、そして教会歴史を収集し保存することが大切であると教えられていますが、それはなぜでしょうか。

マーリン・K・ジェンセン長老 — 聖典、とりわけモルモン書

は、「覚えておくこと」が福音の基本的かつ救いに関わる原則であることをはっきりと示しています。記録をするのは、わたしたちが覚えていられるようにするためです。過去を覚えていると神の子供として必要な将来への展望を持ち、未来の行く末に対して信仰を持つことができます。そうすれば、現在をより忠実に生きることができるようになるのです。

1830年4月6日に教会が組織された日に、主は預言者ジョセフ・スミスにこのように命じられました。「見よ、あなたがたの間で記録を記さなければならぬ。」（教義と聖約21:1）教会歴史家および記録者という職は、この啓示に基づいて定められました。

その日、預言者ジョセフは、教会の歴史を記録することが主の目から見てどれほど重要であるかを学びました。そして間もなく、最初の教会歴史家および記録者としてオリバー・カウドリを召しました。オリバーは初めに集会の議事録、祝福師の祝福、会員情報、神権の権能の証明書を記録しました。また、いわゆる教会の叙史的な歴史記録も書き始めました。

記録を残すことは神の戒めによって始まり、今日まで続いています。

教会歴史家および記録者という召しにはどのような責任がありますか。

ジェンセン長老 — 教会歴史家および記録者の責任の大部分は記録を作成することです。それには教会歴史として残したい資料の収集と保存、儀式を記録すること、また、議事録の収集などが含まれます。聖文にも、記録を確実に「教会のためになる、

……また後の世代のためになる」（教義と聖約69:8）ように使う責任があると示唆されています。

歴史家と記録者の役割はお互いを補う部分が多く、あまり区別できないときもあります。教会の初期の時代に、記録者のみ、または歴史家のみとして召されることがあったのはその理由だと思います。また、最近では両方を組み合わせて一つの召しとするようになったのも、これらの責任の内容が相互に補完的であるからでしょう。

教会歴史を記録すること、また教会歴史を教えることの目的は何でしょうか。

ジェンセン長老 — 教会歴史の第一の目的は、教会員がイエス・キリストを信じる信仰をはぐくみ、聖約を守るのを助けることです。この目的を達成するため、主に次の3つの点に配慮しています。

一つ目は、回復の土台となる真理を証し、守るためです。

二つ目は、神が御自身の子供たちのためになされた偉大な事柄を教会員が覚えているように助けることです。

三つ目は聖文の中にあります。わたしたちは、神の王国に関して明らかにされた秩序を守ることを聖文の中で命じられています。それには啓示、文書、手順、措置、規範を保存することが含まれます。これらは、神権の鍵の行使、神権定員会の正しい機能、儀式の執行など、救いに欠かせない事柄の秩序を保ち、継続させていくために必要なものです。

教会歴史家および記録者の職があることにより、教会は他にどのような益を得ているのでしょうか。

ジェンセン長老 — 教会歴史家および記録者は、歴史的な事柄に関して教会の公式な見解を提示することができます。歴史に関する疑問はいつもあります。議論が生じることもあります。答を求める人たちに信頼できる回答を提示できる職があるのは良いことです。

教会歴史家および記録者は、教会の歴史的な土地や建物を管理・運営する史跡委員会の委員長を務めています。また、教会記録管理委員会の委員長も兼任します。この委員会は、宗務、法人を問わず、全世界の教会における記録の作成、管理、最終的な取り扱いを監督します。

最も重要で神聖な記録の中には、神殿儀式の執行を証明する記録があります。それらの記録は「そのまま受け入れるに値する」書の一部として保存され

ています(教義と聖約128:24)。神殿儀式の記録を含めて、会員の方々の全ての記録が大切に保管されていますので、信頼し安心してください。

歴史家の責任を果たすうえで、教会はテクノロジーをどのように使っていますか

ジェンセン長老 — わたしは、教会歴史に欠かさない資料を収集し保存している家族・教会歴史部と連携して働いています。現在わたしたちは、より効率よく教会歴史資料を集めて保存し、世界中の会員が閲覧できるような方法を開発しています。わたしたちが行っている作業においてインターネットがさらに重要な役割を果たすことは間違いありません。

わたしたちが長年収集してきた書物、文書、品物、史跡、画像などは、いわば教会歴史における最も価値ある宝です。わたしたちにはこうしたものを認められたふさわしい方法で全ての会員と分かち合う責務があると感じています。初版のモルモン書の原稿をインターネットで閲覧したり、モロナイが少年ジョセフ・スミスに現れた、丸太でできたスミス家の2階の部屋をバーチャルツアーで見学したりすることができれば、会員の方々にとって、信仰をはぐくみながら教会の過去に触れる良い機会となるでしょう。

また、テクノロジーは、地元の指導者や書記、またステーキ、ワード、伝道部の年次歴史記録を編集する担当者にとって、訓練やサポートをさらに受けやすい環境を作ってくれます。テクノロジーを活用することによって、教会本部と各地との間で歴史に関する情報がよりスムーズにやり取りされるようになるでしょう。

教会には新たに教会員になった人から、何世代も前からの会員もいます。どうすれば教会歴史を全教会員にとっての共通の遺産とすることができますか。

ジェンセン長老 — 民の偉大さはその歴史の偉大さに等しいという言葉があります。教会歴史は、ジョセフ・スミスについての記録、つまりジョセフが真実の教会を探し求める感動的な物語から始まっています。ジョセフの話を信じる人は信仰篤い人々の大きな群れに加わります。回復された福音を受け入れて生き方を変えるのです。この経験が、末日聖徒として共有する受け継ぎの非常に大きな部分となります。また、この教会が存在し、成長を続け、活発に活動するに当たり、教会の始まりに関する歴史が大切な役割を果たしているということも、この経験を通して知ることができます。

教会歴史の中で、ぜひ多くの人に知ってもらいたい話、また教会や家庭で教える価値のある偉大な物語は他にもあります。カートランドで学んだ教訓、ミズーリでの試練、ノーブーにおける聖徒たちの功績と最終的な追放、開拓者の西部への移住は、国や言語を問わず世界中の末日聖徒に靈感を与える話です。また、教会の成り立ちと発展についても同じように感動的なエピソードがあり、さらに、回復された福音に接した世界中に住むごく普通の会員の人生にも、福音の影響に関する感動的な物語があるのです。それらもまた記録し保存することが必要です。

教会と家族歴史の関係についても考える必要があります。通常、片方について研究すると、もう片方の研究につながっていきます。教会における最も偉大な物語のほとんどは、個人的な記録や家族の歴史の中にあります。それらは個人と家族の受け継ぎの一部となるものです。

最後に、教会歴史という受け継ぎを得るには、単に歴史書を読むだけでないことを覚えておかねばなりません。史跡を訪れたり、歴史的な品物を見に博物館を訪れたり、親族の集まりに参加したり、個人の日記を書いたりすることも大切です。全ての人が何らかの形で過去と関わりを持つことが鍵となります。

教会歴史家および記録者として奉仕していて、個人的に最も意義深く感じていることは何ですか。

ジェンセン長老 — 聖典は神聖な歴史書であるということを悟りました。わたしたちに記録を残した預言者たちは、自分たちの歴史物語の中に説教や教えを織り込んでくれました。例えば、モルモン書はリーハイとその家族の物語で始まります。聖典ですが、歴史物語でもあるのです。モルモン書はわたしたちの持つ書物の中で最も優れた歴史書です。歴史と教義の関わりを示す最もすばらしい見本です。わたしは、聖文と歴史が一つになって作用するときの力強さを理解し、大切に思うようになりました。

また、神の御前には、過去、現在、未来、全てが存在するという証を得ました。これは聖文にある真理の定義と見事に合致します。真理とは、「現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識」です(教義と聖約93:24)。わたしたちは現在に生きています。未来は見えませんが、過去を見ることはできます。但し、保存されていればです。過去から得られる物の見方、そして行動や思考の土台は、他の方法では決して手に入れられないものです。祖父の時代の歴史、

預言者ジョセフ・スミスの歴史、教会の初期に末日聖徒の開拓者が受けた試練の歴史、あるいは第二次世界大戦で従軍した末日聖徒の兵士の歴史。どのような歴史であれ、過去から学ぶ教訓は現在の問題に取り組む助けとなり、未来に対する希望を与えてくれます。

わたしは、これまでになく預言者ジョセフ・スミスに感謝するようになりました。この神権時代の基礎を据えた預言者として、ジョセフが偉大な事柄を成し遂げてくれたからです。

わたしが大切に思うようになったものの中で最も重要なことは、正直な心をもって神を知りたいと望むならば、神を知ることができ、自分には神に対して報告をする責任があることを実感できるという確信だと思います。これは預言者ジョセフ・スミスの模範のおかげです。ジョセフは模範を示し、この原則を教え、わたしたちもキリストを知ることができるという約束を示してくれたのです。これはわたしにとって、非常に価値あることです。



末日聖徒
イエス・キリスト
教会